

体験活動を通して、ふるさとのよさに改めて気付かせる活動

東神楽町立東神楽小学校

1 活動の概要

本校では、第5学年が総合的な学習の時間の一環として、ふるさとのよさを認識し、自分の住んでいる町に誇りをもつことをねらいとして、PTAやJA、町役場の協力を得て稲作体験に取り組んでいます。また、毎年地域の方々から提供されたもち米を使って、地域の方々と一緒に第1学年がもちつきを行い、全校給食の時間に試食しながら世代間の交流を深めています。



2 活動の様子



<5月下旬> 「田植え」体験の実施

地域人材の指導により、「田植え」体験を行いました。本校では、田植え作業において、植物等にかぶれやすい体質の児童が作業を行わないようにするなど配慮しています。

(児童の感想)

- 田んぼが想像以上に深くてびっくりしました。
- 植えた後の苗がなかなかまっすぐにならなかったため、手で苗を植えるのがとても大変だということが分かりました。

<5月~6月> 各教科等での指導

社会科や総合的な学習の時間において、田植えなどの体験活動と関連させながら、稲作に従事している人々の工夫や努力等について学習を深めました。

<9月> 「収穫」体験の実施

地域人材の指導により、「稲刈り・はさがけ・脱穀」体験を行いました。



<12月> 集会等の実施

地域の方々の協力を得ながら、第1学年が「もちつき集会」「おもち給食」を行いました。

3 Naviポイント

- 年間を通して、保護者や地域住民と一緒に活動する機会を計画的、継続的に位置付けるなどして、地域全体で子どもを育てる気運を高めることが大切です。
- 各教科等の指導と体験活動の内容や時期が関連するよう、体験活動を意図的・計画的に実施することが大切です。